

## 住宅用太陽光発電システム補助制度の募集窓口になりました

昨年 9 月の補正予算で閣議決定された平成 20 年度住宅用太陽光発電導入支援対策費補助金について、有限責任中間法人太陽光発電協会 (JPEA) が国の委託を受け、同協会内に設けた太陽光発電普及拡大センター (J-PEC) において交付を行うことになりました。

交付に際しては各都道府県に受付窓口を設置することになり、MELON は宮城県の推薦を受けて応募し受付窓口団体となりました。

募集期間は 2009 年 1 月 13 日 (火) ~ 2009 年 3 月 31 日 (火) まで。補助金額は太陽電池出力 1kW あたり 7 万円、最大出力が 10kW 未満でかつシステム価格が 70 万円 /kW

以下であることが条件となります。受付日時は祝日を除く月曜~金曜の 9:30~18:00 です。対象は個人の居住する住宅に限られています。詳しくは J-PEC のホームページ (<http://www.j-pec.or.jp>) をご覧ください。

この事業は受付窓口としての事務作業のみとなりますが、この補助制度が自然エネルギーの普及拡大につながればうれしいと思います。



©MIC



## 決まり文句を疑う

新幹線客室ドアの上に流されるニュース。いまだに「特別警戒中」であることが知らされていません。でも、「テロに対する」の文字はもうどこにも出てこない。そういえば、駅のホームには、撤去されていたゴミ箱がもどっているではありませんか。『テロに対する恐れが少なくなったのでゴミ箱を戻しました。』ぐらい書いて欲しい。本当なら『テロに対する戦争』という間違った情報でゴミ箱を撤去してしまいましたが、あれは間違いでした。』と堂々とあやまって欲しい。マスメディアではあれだけ決まり文句になってしまった「テロに対する戦争」も「大量破壊兵器」も、その言葉の下で沢山の人が死に、家も家族も失ったというのに『間違った情報だった』という一言で私たちの目から耳から消えていくのです。本当はこれからその責任が問われるというのに。

アリス・ウォーカー文、ステファーン・ヴィタール絵、長田 弘 訳「なぜ戦争はよくないか」(偕成社 2008 年 12 月) を読んでみましょう。何も知らないカエル、ロバと男の子の赤ん坊を抱い

た母親、文化遺産、森と動物たち、広島を思わせる町、登場する物たちに戦争は襲いかかる。「戦争は戦争の目で物を見るのよ」そう言われると、ゴミ箱がそっともどったことが遠い砂漠で何人もの人が死んだ戦争と関係があったこと。そのことをうやむやにしたいこともわかる。女性の言葉に翻訳された絵本の言葉は、更にその外側から力づくの戦争を語っています。

わたしたちは、テレビやラジオにしょっちゅう出てくる決まり文句に注意をしなければいけないかも知れません。いまなら「百年に一度の金融危機」といわれてしまうと自然災害のように耳の中をすり抜けてしまおうし、「アメリカのサブプライム問題に端を発した」といわれるとそのシステムを考えた人だけが金融危機を招いたようであり、「深刻な景気悪化」といわれてしまうと、経営者の「苦渋の決断」の恐ろしさが半減してしまおう。だから、『宗教対立』も『地球にやさしい』や『エコ替え』すら、注意をはらわなければいけないのでしよう。

なぜ  
戦争は  
よくないか

アリス・ウォーカー 文 / ステファーン・ヴィタール 絵  
長田 弘 訳